

「八十里越」「丸倉トンネル」 渡部悠希さんが受賞

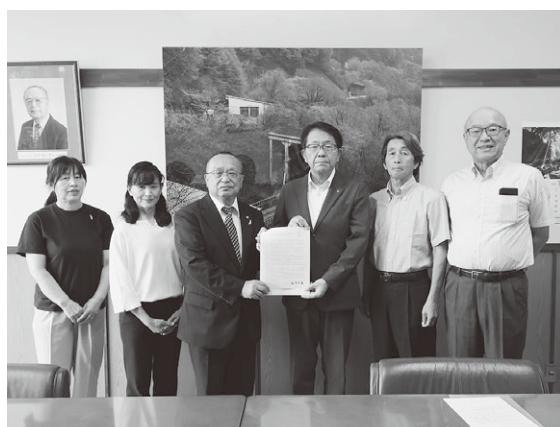


▲受賞した渡部悠希さん（中央）とご家族の皆さん

「国道289号八十里越道路構造物名称募集表彰式」が6月27日、三条市のスポーツセンターはやぶさで行われました。八十里越を象徴する構造物である4施設の名称が募集され、選考委員会の審査を経て、決定しました。このうち、8号トンネルの名称が「丸倉トンネル」に決まり、応募した渡部悠希さん（下福井）に渡部町長と三条市の滝沢亮市長から表彰状と賞金が授与されました。

受賞した渡部さんは「トンネルの近くに旧道があり、橋の名前が丸倉橋だったので、そこから名付けた。家族で考えたので採用されて良かった」と話しました。

「明るい社会の実現へ」 南会津地区保護司会が来庁



▲メッセージを手渡す土井会長（左から3人目）

7月1日、南会津地区保護司会の土井昭二会長と町内の保護司4人が来庁し、「第76回社会を明るくする運動」にあわせ、保護司をはじめとした更生保護ボランティアを広く知ってもらうため、国からのメッセージを町に渡しました。

保護司は、犯罪や非行から立ち直ろうとする人を支援するボランティアで、対象者と定期的な面接を行っており、面会場所の確保などの環境整備を町に要望されました。令和9年7月には町内で「社会を明るくする運動住民集会」が開催予定です。

「道」から見る地域の姿 企画展「奥会津の道」 プレオープニングセレモニー



▲展示を解説した原永学芸員（左から2人目）

奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の道」（只見川電源流域振興協議会主催）が7月18日に開幕し、17日にはただみ・モノとくらしのミュージアムでプレオープニングセレモニーが行われました。企画展は奥会津の7町村に加え、長岡市や日光市など14市町村15施設で開催され、それぞれ独自の企画で街道や鉄道など「道」に関する写真や古文書、民具などを展示し、その役割や背景にある物語を紹介しています。

セレモニーで只見川電源流域振興協議会会長の渡部町長は「企画展が新たな交流を生み出し、未来へのひとつの道しるべになることを願う」と挨拶しました。

「診療所と集落をつなぐ」 遠隔医療の実証 開始へ



▲操作勉強会の様子

朝日診療所では、IT企業の（株）イー・エヌ・エー（DeNA）による総務省「地域社会DX推進パッケージ事業（先進的通信システム活用タイプ）」に採択された遠隔診療の実証事業を9月から始まります。実証では、診療所と布沢簡易郵便局を次世代高速通信基盤「IOWN（アイオン）」におけるオールフォトリクス・ネットワークを用いて接続する他、診療所と只見公民館をインターネット回線で接続しオンライン診療を行います。各診療施設では看護師同席の下、接続先の診療所医師の診察を受けます。

8月27日には、只見・明和公民館において、事業紹介や診療所長の健康講話などを行う周知イベントを予定しています。

診療所ではオンライン診療が町民にとって身近になるよう、引き続き遠隔診療の環境整備に向けた取り組みを進めていきます。